

〔物類稱呼^二動物〕方頭魚かながしら 參河にてかなごと云、越後糸魚川にていぢみと呼、常陸下總にてぎすと云、其かしら角ありてかたし、故にかながしらといふ、

〔本朝食鑑^八〕鐵頭魚俗訓加奈

集解、處處多有、頭骨高起、堅硬如鐵兜、圓身長、鱗尾有岐而硬、背鱗至尾如刺而紅、鱗細而略紅、肚白帶黃、大者不過尺、味亦不佳、近代舉世誕子之家、必以此魚供賀膳、取其頭頸、堅固之義、冠笄婚姻之儀亦然焉、

肉、氣味微甘有毒、按小鰩則必令人醉

〔和漢三才圖會^{四十九}〕銅頭魚 正字未詳 俗云加奈加之良

按銅頭魚處處多有之、冬春盛出、大者六七寸、頭骨高起硬而赤、頗似銅色、故名之、圓身長、鱗尾有岐而硬、背鱗至尾如刺而赤、細鱗淺紅而腹白、帶黃、眼眶淺黃、肉甘平、世俗子出生家、必以此魚供賀膳、取堅固之義矣、如無鮮魚時、用乾者、

〔書言字考節用集^五〕魴魚形 魴トヒキ

〔倭訓栞^{中編十九}〕ほうぼう 方帽と名けしにや、方頭魚也といへり、佐渡にきみうをと云ひ、薩摩にぼこの魚といふ、

〔物類稱呼^二動物〕保字保字ほうぼう 佐渡にてきみうをと云、薩摩にてぼこの魚と云、

〔和漢三才圖會^{四十九}〕保字ほうぼう 正字未詳

按保字婆字魚、狀色氣味共似銅頭魚、而大、其吻有硬鬚、而尾鱗有五彩色、其鱗細於銅頭魚、大者尺餘、炙食甚甘美、肉厚白、冬春以賞之、

〔魚鑑^上〕ほうぼう 佐渡にきみうを、西國にことひき、又ほこのうをといふ、俗に魴魴の字を用ゆ、漢名未詳、その狀かながしらに似て、少しく黒色なり、鬚長くして身にひとし、表白くして淡赤し、

魴魴